

「親子の関係についての意識と実態」

—— 親1万人・子ども6千人調査 ——

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 木島 正博）は、株式会社きんざい（代表取締役社長 加藤 一浩）と共同で全国の親1万人・子ども6千人を対象に「親子の関係についての意識と実態に関する調査」を企画・実施しました。本リリースでは、親子関係の現状、恋愛観と友人観に見る親子の相違、子どもの進学・就職等への親の関わり、子どものSNS利用に関する親の心配等をご紹介します。

＜ 主 な 内 容 ＞

<p>○子どものことを理解している自信がない</p> <p>父親 36.4% 母親 22.4%</p> <p style="text-align: center;">（6 ページ）</p>	<p>○異性の親との入浴を小学校4年生以降に卒業</p> <p>＜10代後半の子ども＞ 男性 21.0% 女性 28.6%</p> <p style="text-align: center;">（8 ページ）</p>	<p>○反抗期がなかった</p> <p>＜子ども＞ 男性 42.6% 女性 35.6%</p> <p>＜親：子どもだった頃＞ 父親 28.1% 母親 26.4%</p> <p style="text-align: center;">（9 ページ）</p>
<p>○恋愛に積極・能動的</p> <p>＜子ども＞ 男性 18.0% 女性 23.2%</p> <p>＜親：20歳前後だった頃＞ 父親 40.5% 母親 36.4%</p> <p style="text-align: center;">（11 ページ）</p>	<p>○休日の過ごし方～恋人よりも友人を優先</p> <p>＜子ども＞ 男性 24.2% 女性 39.1%</p> <p>＜親：20歳前後だった頃＞ 父親 29.0% 母親 22.6%</p> <p style="text-align: center;">（12 ページ）</p>	<p>○子どもの就活に関与</p> <p>＜息子の就活＞ 父親 34.8% 母親 39.6%</p> <p>＜娘の就活＞ 父親 31.6% 母親 45.9%</p> <p style="text-align: center;">（17 ページ）</p>
<p>○結婚するもしないも子どもの自由</p> <p>＜息子について＞ 父親 9.9% 母親 15.8%</p> <p>＜娘について＞ 父親 11.6% 母親 15.8%</p> <p style="text-align: center;">（19 ページ）</p>	<p>○SNSを通じた人間関係にわずらわしさを感じている</p> <p>＜10代後半の子ども＞ 男性 34.6% 女性 47.9%</p> <p style="text-align: center;">（22 ページ）</p>	<p>○いじめを受けたことがある</p> <p>子ども全体 46.0% 20代後半女性 54.6%</p> <p style="text-align: center;">（24 ページ）</p>

ご照会先	㈱明治安田生活福祉研究所 生活設計研究部 力石・瀬在・笹木	電話：03(3283)9297 FAX：03(3201)7837 Eメール：chikaraishi@myilw.co.jp
------	-------------------------------------	--

＜ 調査の概要 ＞

- (1) 調査対象： 親調査…全国の35～59歳の男女（中学生～29歳の子を持つ親）
子調査…全国の15～29歳の未婚男女（高校生・専門学校生・大学生等・社会人）

・本レポート解説文中「子ども」と称するのは、特に注記等を記載しない場合は「子調査」対象の15～29歳の未婚男女です。また、「大学生等」とは大学生の他、短大生および大学院生を含みます。

- (2) 調査方法： WEBアンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）

- (3) 調査時期： 2016年3月16日～3月23日

- (4) 回収数： 親調査…9,715名 子調査…5,803名

- (5) 対象の属性

【親調査】

子の属性	親の性別	親の最終学歴		合計
		大学・短大・大学院卒	左記以外	
中学生	男性	515	515	1,030
	女性	515	515	1,030
高校生	男性	515	515	1,030
	女性	515	515	1,030
専門学校生	男性	328	472	800
	女性	172	503	675
大学生等 (大学生・短大生・大学院生)	男性	515	515	1,030
	女性	515	515	1,030
社会人 (～29歳)	男性	515	515	1,030
	女性	515	515	1,030
計		4,620	5,095	9,715

【子調査】

	男性	女性	合計	
高校生	515	515	1,030	
専門学校生	138	515	653	
大学生等 (大学生・短大生・大学院生)	1,030	1,030	2,060	
社会人	～24歳	515	515	1,030
	25～29歳	515	515	1,030
計	2,713	3,090	5,803	

< 目次 >

1. 親子関係の現状

■良好な親子関係…………… 5 ページ

- ◇仲の良い親子が大多数
- ◇子どもを理解している自信がない父親は 36.4%・母親は 22.4%

■親子の距離感の変化…………… 6 ページ

- ◇親が子どもの頃よりも、子どもは親と二人で外出することに抵抗がない
- ◇不満や悩み事の相談相手は、親と子どもの比較では「母親」と「恋人」が増加
- ◇異性の親との入浴、10代後半の男性 21.0%・女性 28.6%が小学校 4 年生以降に卒業
- ◇親との同居は、「経済的自立まで」か「結婚まで」

■反抗期としつけに見る親子の関わり方の変化…………… 9 ページ

- ◇子ども男性 42.6%・女性 35.6%が「反抗期がなかった」特に男性が親よりも増加
- ◇ほめ育ての親が増加

■これからの親子関係…………… 10 ページ

- ◇今後の親子関係は「遠くなる」と考える親が多い

2. 恋愛観・友人観に見る親と子の相違

■変わる子どもの恋愛観・友人観…………… 11 ページ

- ◇子どもは 4 人に 3 人が「異性との友情は成立する」親よりも大幅に増加
- ◇子どもは「恋愛に積極・能動的」が減少
- ◇「恋人よりも友人を優先する」女性が増加

3. 親が子どもに望むもの

■自分が子どもに望むこと、かつて望まれていたことの比較…………… 13 ページ

- ◇親が子どもに望むのは「明るい家庭」・「人並みな生活」に続いて、「好きな仕事」

■親が子どもに身につけてほしいこと・子どもが身につけたいこと…………… 14 ページ

- ◇子どもは、「語学力」・「資格・免許」など具体的なスキルを身につけたい

4. 子どものライフイベントへの親の関わり

■子どもの進学への関わり…………… 15 ページ

- ◇親が子どもに「大卒以上」希望は、息子 71.7%・娘 67.6%　子どもの希望は 65.0%
- ◇世帯年収が高くなるほど母親は子どもの進学に積極的に関与
- ◇親は自分の進学について親の関与が強かったほど、自分も子どもの進学に積極的に関与

■子どもの就活への関わり…………… 17 ページ

- ◇子どもの就活まで関わる親が増加傾向
- ◇子どもに近くで働いてほしい親は 58.5%

■子どもの結婚への関わり…………… 19 ページ

- ◇息子に 30 代前半までの結婚を望んでいる母親が多い
- ◇「結婚するもしないも子どもの自由」と考えている父親は約 1 割、母親は 15.8%
- ◇子どもが望む結婚年齢は 20 代後半
- ◇子どもの婚活への関与希望は 47.7%

5. 親の心配

■子どもの SNS との関わり方…………… 21 ページ

- ◇インターネット利用について親が心配すること
- ◇SNS は、多くの若者が負担やわずらわしさを感じながらも大切なツール
- ◇実際に会ったことのない相手との SNS でのコミュニケーション　10 代後半女性は 68.6%
- ◇大事な話をメールや LINE で伝えることに、子どもの 28.3% は抵抗感なし

■いじめの実態…………… 24 ページ

- ◇子どもの約半数がいじめられた経験があり、20 代後半女性では 54.6% にも

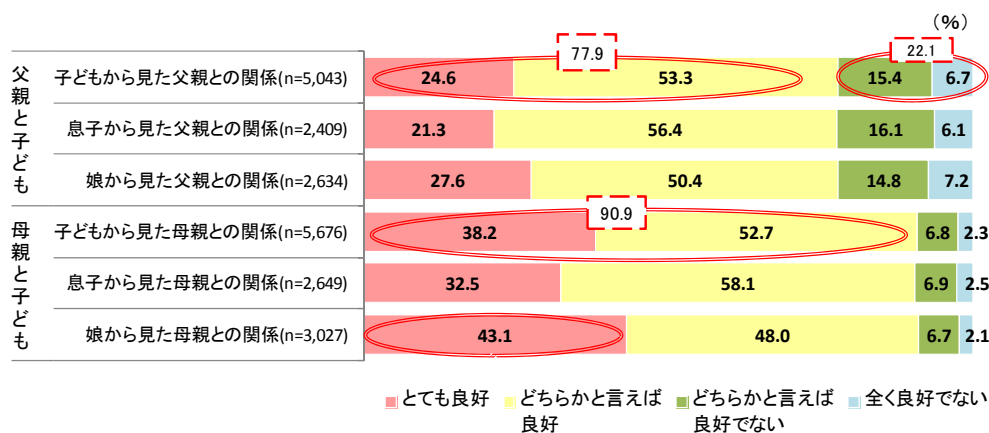
1. 親子関係の現状

■ 良好な親子関係

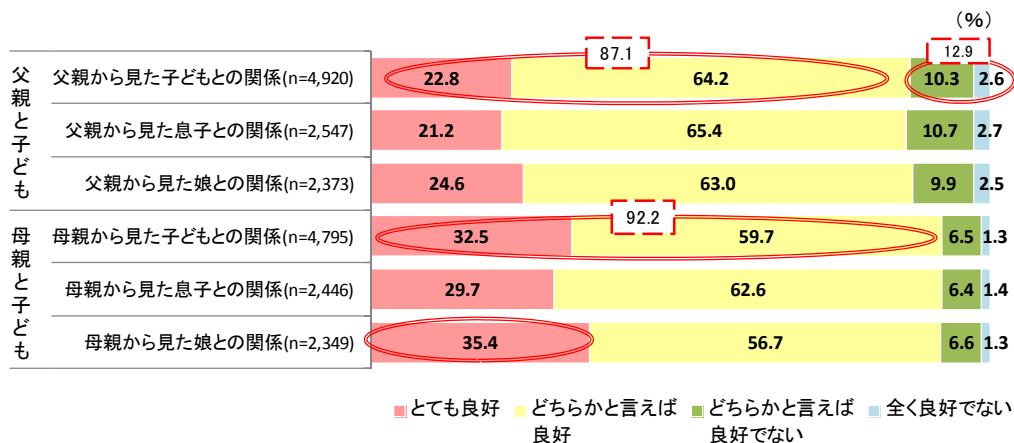
◇仲の良い親子が大多数

- ・近年『友達親子』と称される仲の良い親子が増えていると言われてはいますが、実際はどのようなのでしょうか。
- ・父親との関係が良好（「とても良好」＋「どちらかと言えば良好」）と思っている子どもは 77.9%、母親との関係が良好と思っている子どもは 90.9%で、親子の関係を良好と思っている子どもが大多数です(図表 1)。
- ・親から見ても、親子関係が良好と思っているのは父親 87.1%・母親 92.2%で、大多数は良好と思っています(図表 2)。
- ・大差はありませんが、母親の方が父親よりも子どもと仲良しようです。
- ・父親との関係を良好でない（「どちらかと言えば良好でない」＋「全く良好でない」）と思っている子どもは 22.1%、これに対し子どもとの関係が良好でないと思っている父親は 12.9%で、その差は 9.2 ポイントあり、父親と子どもとの認識にはやや相違があります。
- ・親子関係の良好度を親子それぞれの性別に見ると、「とても良好」の割合は母と娘の関係で最も高くなっており、母親との関係が「とても良好」と思っている娘は 43.1%、娘との関係が「とても良好」と思っている母親は 35.4%となっています（図表 1・2）。

図表 1 子どもから見た親との関係



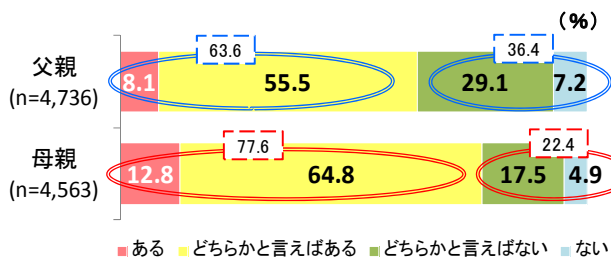
図表 2 親から見た子どもとの関係



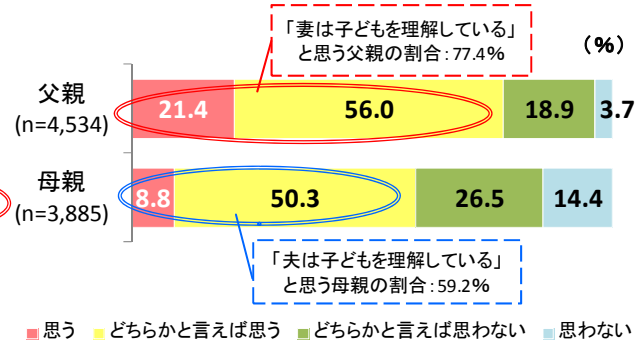
◇子どもを理解している自信がない父親は 36.4%・母親は 22.4%

- ・仲が良いと思っている親子が大多数ですが、親はどの程度子どものことを理解している自信があるのでしょうか。
 - ・理解している自信がある（「ある」＋「どちらかと言えばある」）のは父親 63.6%・母親 77.6%、理解している自信がない（「どちらかと言えばない」＋「ない」）のは父親 36.4%・母親 22.4%です（図表 3）。
- 前掲の親子関係を良好と考えている親の割合（父親 87.1%・母親 92.2%）よりも子どもを理解している自信がある親の割合は低く、親子関係は良好なもの、子どもを理解している自信がない親もいるようです。
- ・配偶者が子どものことを理解していると思っている（「思う」＋「どちらかと言えば思う」）のは、父親（「妻は子どもを理解している」と思う）77.4%・母親（「夫は子どもを理解している」と思う）59.2%で、自分自身の評価と配偶者からの評価との比較では、母親は相違がないものの、父親は配偶者からの評価が 4.4 ポイント低くなっています（図表 4）。

図表 3 子どもを理解している自信があるか



図表 4 配偶者が子どもを理解していると思うか

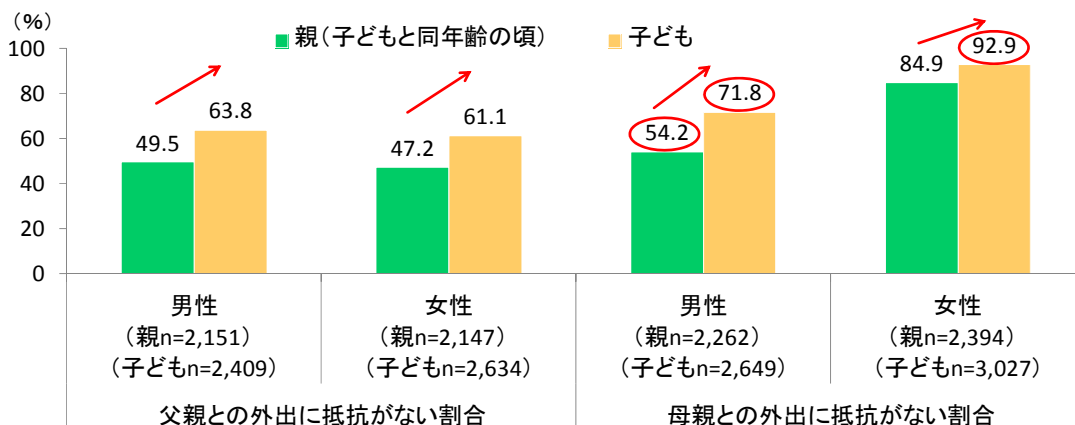


■ 親子の距離感の変化

◇親が子どもの頃よりも、子どもは親と二人で外出することに抵抗がない

- ・親子関係の変化を、親との外出に対する子どもの意識の視点で見えます。
 - ・子どもは、父親との外出に抵抗がないのは男性 63.8%・女性 61.1%、母親との外出に抵抗がないのは男性 71.8%・女性は 92.9%となっています。
- 母親との外出に抵抗がないのは女性が男性よりも 21.1 ポイント高く、前述の親子関係の良好さとあわせて、母と娘の親密さがうかがえます。
- ・親（自分が子どもと同年齢だった頃を思い出して回答）が父親との外出に抵抗がなかったのは男性 49.5%・女性 47.2%、母親との外出に抵抗がなかったのは男性 54.2%・女性 84.9%でした。
 - ・親と子どもを比較すると、現在の子どもの男女ともに父母いずれに対しても親と二人で外出することに抵抗が少なくなっており、親子の距離が近くなっているようです。
 - ・父親との外出には子どもの約 4 割は抵抗があるものの、親が子どもだった頃より 1 割強抵抗が少なくなっています。
 - ・近年母親のことが大好きな息子が増えていると話題になりますが、母親との外出に抵抗がない息子は、親の 54.2%に対し子どもは 71.8%と 17.6 ポイント高くなっており、母と娘のみならず、母と息子の距離感も近くなっていることがうかがえます（図表 5）。

図表5 親との外出に抵抗がない割合

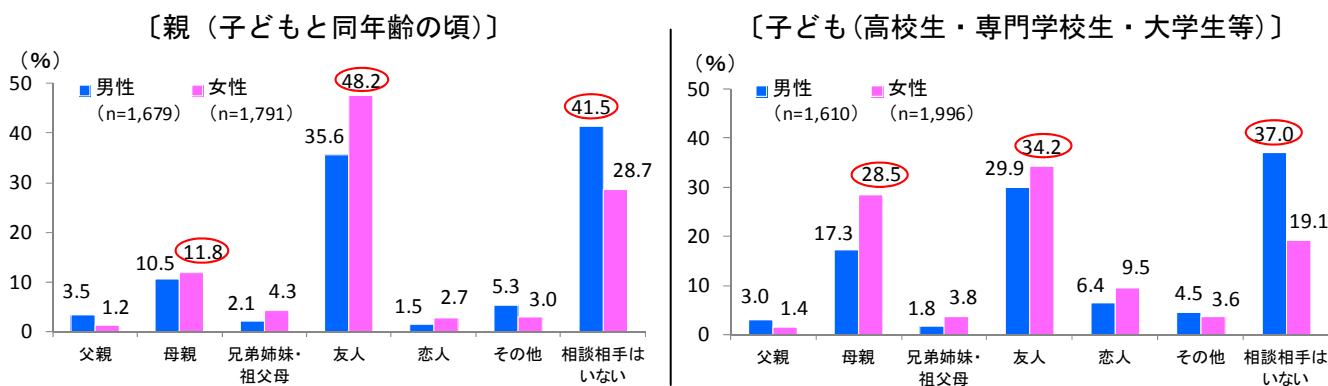


注：親は、高校生・専門学校生・大学生等・20代社会人の子を持つ親

◇不満や悩み事の相談相手は、親と子どもの比較では「母親」と「恋人」が増加

- ・親と子どもに不満や悩み事の主な相談相手をたずねました（親は子どもと同年齢の頃を思い出して回答）。
- ・男性は「相談相手はいない」が親 41.5%・子ども 37.0%、女性は「友人」が親 48.2%・子ども 34.2%と、最も高くなっています。
- ・親と子どもを比べると、相談相手としては「友人」・「母親」の順であることは変わりませんが、子どもは「母親」・「恋人」が男女とも親よりも高くなっています。特に女性で、「母親」は、子どもの28.5%が親の11.8%より16.7ポイント高く、ここにも母と娘の距離感が近くなっていることが現れています（図表6）。

図表6 不満や悩み事の主な相談相手

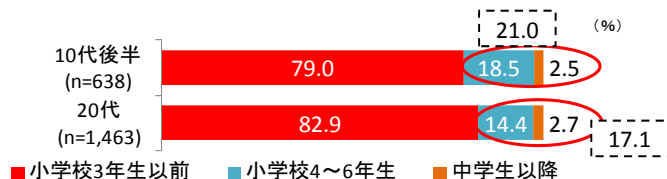


注：親は、高校生・専門学校生・大学生等の子を持つ親

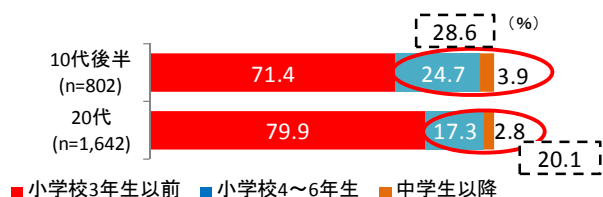
◇異性の親との入浴、10代後半の男性 21.0%・女性 28.6%が小学校4年生以降に卒業

- ・子どもに「いつまで異性の親と一緒に入浴をしていたか」をたずねました。
- ・男女ともに、20代よりも10代後半の子どもの方が異性の親との入浴を卒業するのが遅くなっています。
- ・男性では「小学校4～6年生」・「中学生以降」をあわせると、20代の17.1%よりも10代後半が21.0%と3.9ポイント高くなっています(図表7)。
- ・女性ではこの傾向がより顕著で、「小学校4～6年生」・「中学生以降」をあわせると、20代の20.1%よりも10代後半が28.6%と8.5ポイント高くなっています(図表8)。

図表7 いつまで母親と入浴していたか(男性)



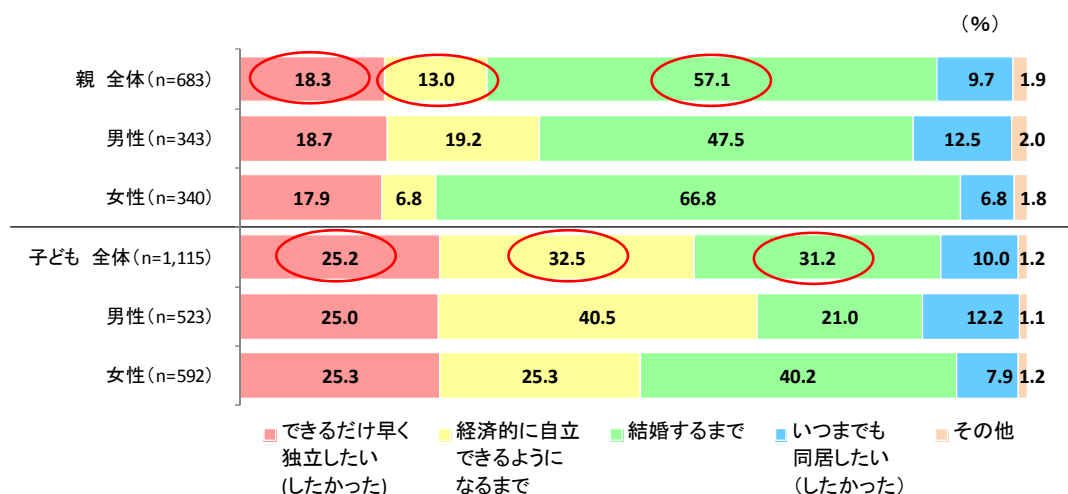
図表8 いつまで父親と入浴していたか(女性)



◇親との同居は、「経済的自立まで」か「結婚まで」

- ・親と同居している社会人の子どもに、親といつまで同居したいかをたずねました。また、子どもと同じ年齢の頃に自身の親と同居していた親(社会人の子どもを持つ親のみ)にも当時いつまで同居したいと考えていたかをたずねました。
- ・「できるだけ早く独立したい(したかった)」は、子どもは25.2%で親(自分が子どもと同年齢の頃を思い出して回答)の18.3%よりも6.9ポイント高く、「経済的に自立できるようになるまで」は、子どもは32.5%で親の13.0%よりも19.5ポイント高くなっています。「結婚するまで」は、子どもは31.2%で親の57.1%よりも25.9ポイント低くなっています。
- ・男女別には、親も子どもも女性が「結婚するまで」が高くなっています。
- ・「いつまでも同居したい(したかった)」は親と子どもで差がありませんでした(図表9)。
- ・親は家を出る理由は「結婚」が大多数であったのに対し、子どもは「早い独立」・「経済的自立」・「結婚」が拮抗しており、経済観や家族・結婚観の変化がうかがわれます。

図表9 親といつまで同居したいか(同居したいと考えていたか)



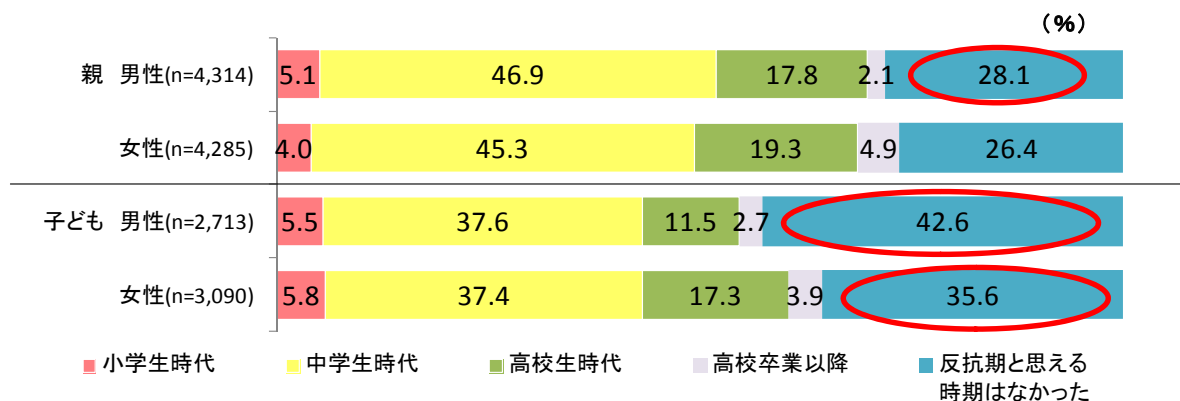
注：親は、子どもと同年齢の頃に親と同居していた人(社会人の子どもを持つ親のみ)。子どもは親と同居している社会人

■ 反抗期としつけに見る親子の関わり方の変化

◇子ども男性 42.6%・女性 35.6%が「反抗期がなかった」 特に男性が親よりも増加

- ・子どもの反抗期について、親子の相違を見てみます。
- ・反抗期の時期については、親子・性別を問わず「中学生時代」が最も高く、次いで「高校生時代」となっています。
- ・「反抗期と思える時期はなかった」は、親は3割に満たなかったのに対し、子どもは男女ともに高く男性42.6%・女性35.6%で、特に男性は親の28.1%よりも14.5ポイント高くなっています（図表10）。

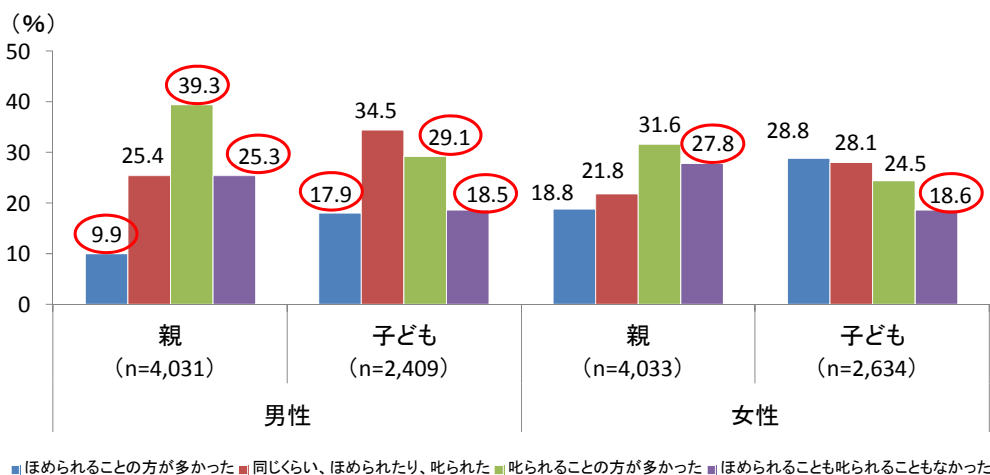
図表10 反抗期の時期はいつか



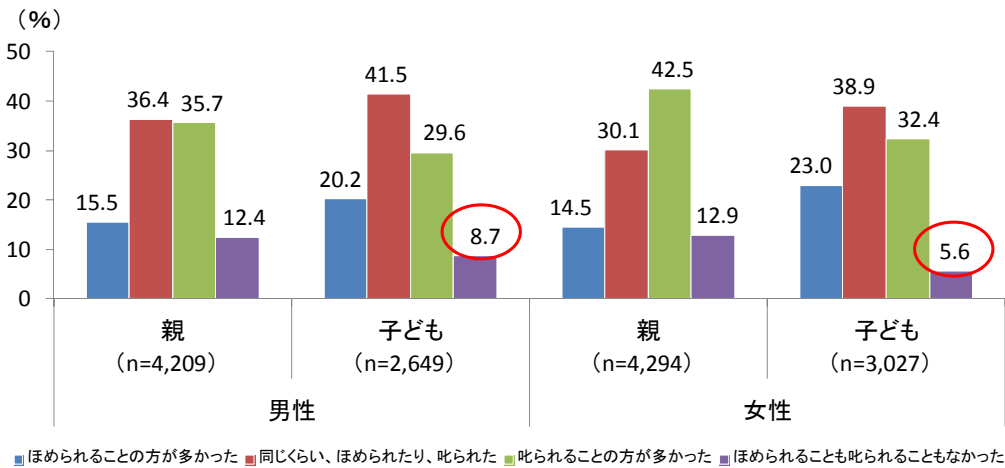
◇ほめ育ての親が増加

- ・親が子どもの頃と比較すると、現在はほめることを重視する親が多くなっているようです。
- ・父親から「ほめられることの方が多かった」男性は、親の9.9%よりも子どもは17.9%と8.0ポイント高くなっています。父親から「叱られることの方が多かった」男性は、親の39.3%よりも子どもは29.1%と10.2ポイント低くなっています。この傾向は、父と娘、母と息子、母と娘の組み合わせでも同様で、親が子どもだった頃よりもほめて伸ばそうという意識が強くなっていることがうかがえます。
- ・「父親からほめられることも叱られることもなかった」は、子どもの男性18.5%・女性18.6%で親の男性25.3%・女性27.8%よりは低くなっているものの、「母親からほめられることも叱られることもなかった」子どもの男性8.7%・女性5.6%と比べると、子どもへの関わりが少ない父親が2割弱と依然として少なくないことがうかがえます（図表11・12）。

図表11 父親からほめられる方が多いか叱られる方が多いか



図表 12 母親からほめられる方が多いか叱られる方が多いか



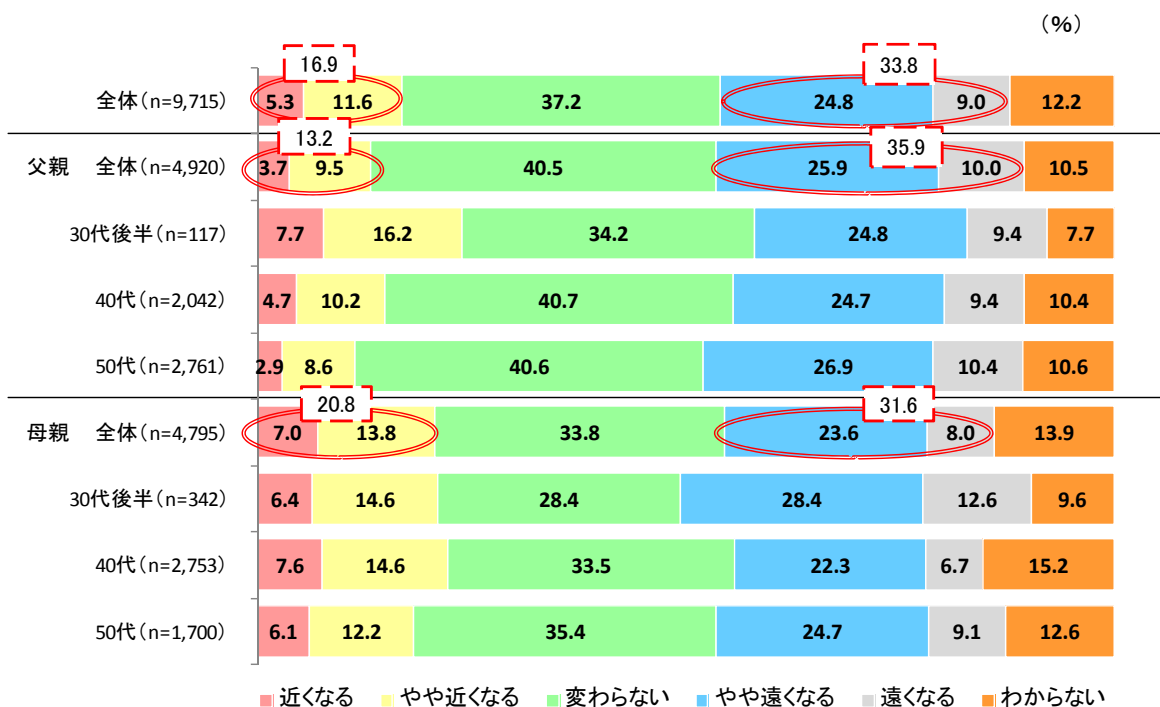
■ほめられることの方が多かった ■同じくらい、ほめられたり、叱られた ■叱られることの方が多かった ■ほめられることも叱られることもなかった

■ これからの親子関係

◇今後の親子関係は「遠くなる」と考える親が多い

- ・今後の親子の距離感が「近くなる」（「近くなる」＋「やや近くなる」）と考えている親は16.9%、「遠くなる」（「遠くなる」＋「やや遠くなる」）は33.8%で、「遠くなる」と考える親が倍になっています。
- ・「近くなる」は父親13.2%・母親20.8%で母親の方が高く、「遠くなる」は父親35.9%・母親31.6%で父親の方が高くなっています。
- ・父親は、「近くなる」は若い年齢層の方が高く、「遠くなる」は年齢層が上がるにつれて高くなっていますが、母親は30代後半で「遠くなる」が最も高くなっています（図表13）。

図表 13 我が国の今後の親子の距離感はどうなると思うか



■近くなる ■やや近くなる ■変わらない ■やや遠くなる ■遠くなる ■わからない

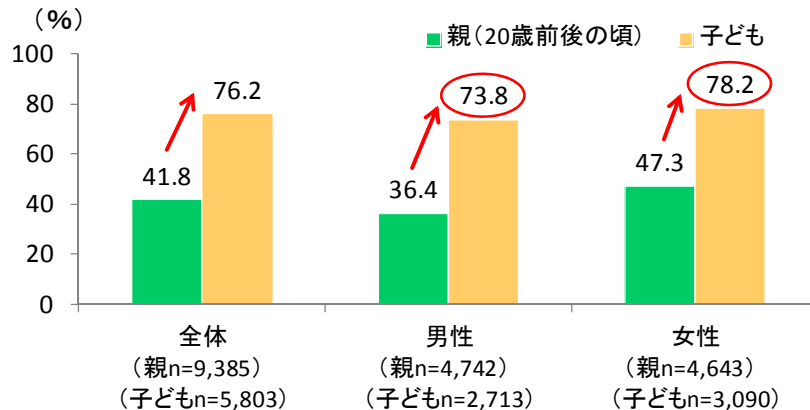
2. 恋愛観・友人観に見る親と子の相違

■ 変わる子どもの恋愛観・友人観

◇子どもは4人に3人が「異性との友情は成立する」 親よりも大幅に増加

- ・男女間の友情が成立するかについて、親子で相違があるか見てみましょう。
- ・「異性との友情が成立すると思う（「思う」＋「どちらかと言えば思う）」は、子どもは男性73.8%・女性78.2%で4人に3人が成立すると思っており、親（自分が20歳前後の頃を思い出して回答）の男性36.4%・女性47.3%に比べて大幅に高くなっています（図表14）。
- ・異性との関係が、親が子どもだった頃に比べて大きく変化していることがうかがえます。

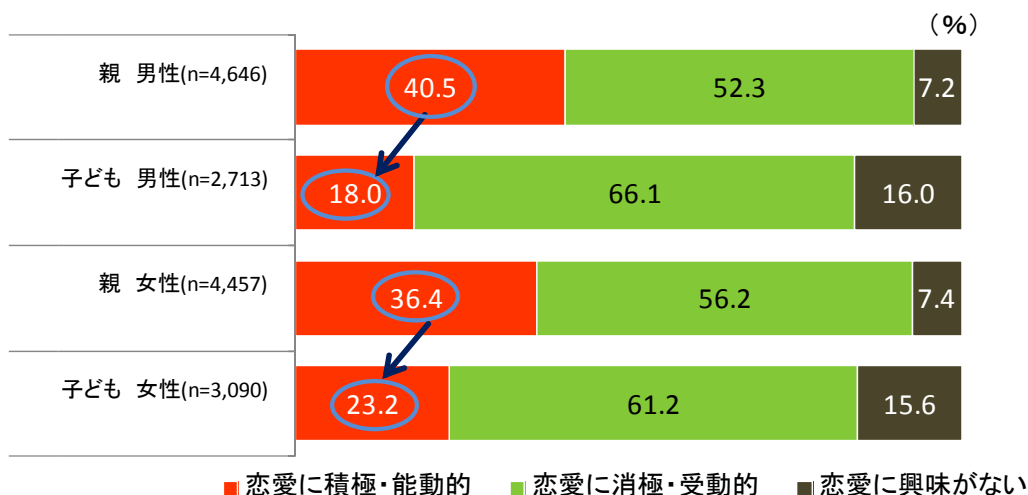
図表14 異性との友情は成立すると思う人の割合（男女別）



◇子どもは「恋愛に積極・能動的」が減少

- ・親と子どもに、恋愛へのスタンスについてたずねました。
- ・子どもの「恋愛に積極・能動的」は、男性18.0%・女性23.2%で、女性の方が5.2ポイント高くなっています。
- ・親（自分が20歳前後の頃を思い出して回答）の「恋愛に積極・能動的」は、父親40.5%・母親36.4%でした。親は若い頃、子どもたちと比べて男性は22.5ポイント・女性は13.2ポイント恋愛に積極・能動的でした（図表15）。
- ・子どもは女性の方が恋愛に積極・能動的なのに対して、親が若い頃は男性の方が恋愛に積極・能動的でした。

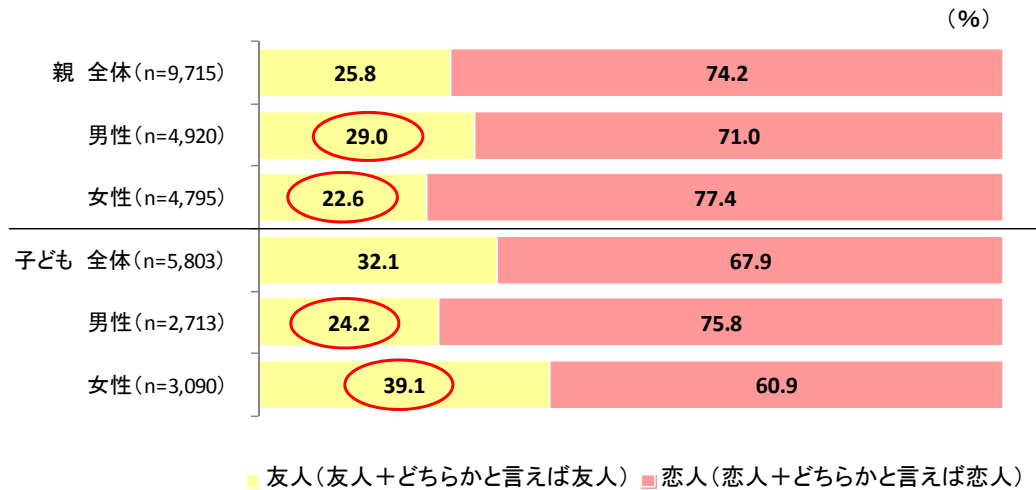
図表15 恋愛へのスタンス



◇「恋人よりも友人を優先する」女性が増加

- ・ 休日の過ごし方として、友人と恋人がいた場合、友人と過ごすことを優先する子どもは男性 24.2%・女性 39.1%で、女性が 14.9 ポイント上回っています。
- ・ 親（自分が 20 歳前後の頃を思い出して回答）は、友人を優先していたのは男性 29.0%・女性 22.6%で、子どもとは逆に男性の方が高くなっています。
- ・ 親と子どもを比べると、女性は子ども 39.1%・親 22.6%で子どもが 16.5 ポイント高くなっており、男性は逆に親 29.0%・子ども 24.2%で親が 4.8 ポイント高くなっています。友人と恋人の優先順位が親と子どもでは変化しています（図表 16）。

図表 16 休日の過ごし方として友人と恋人どちらを優先するか



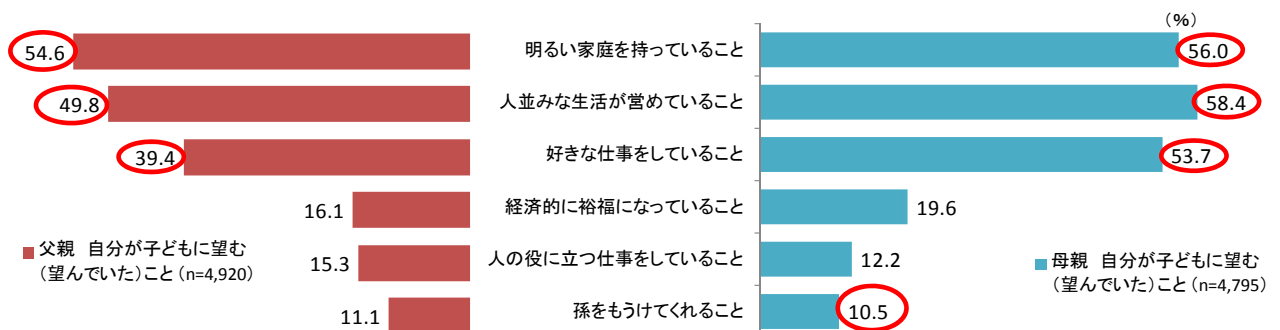
3. 親が子どもに望むもの

■ 自分が子どもに望むこと、かつて望まれていたことの比較

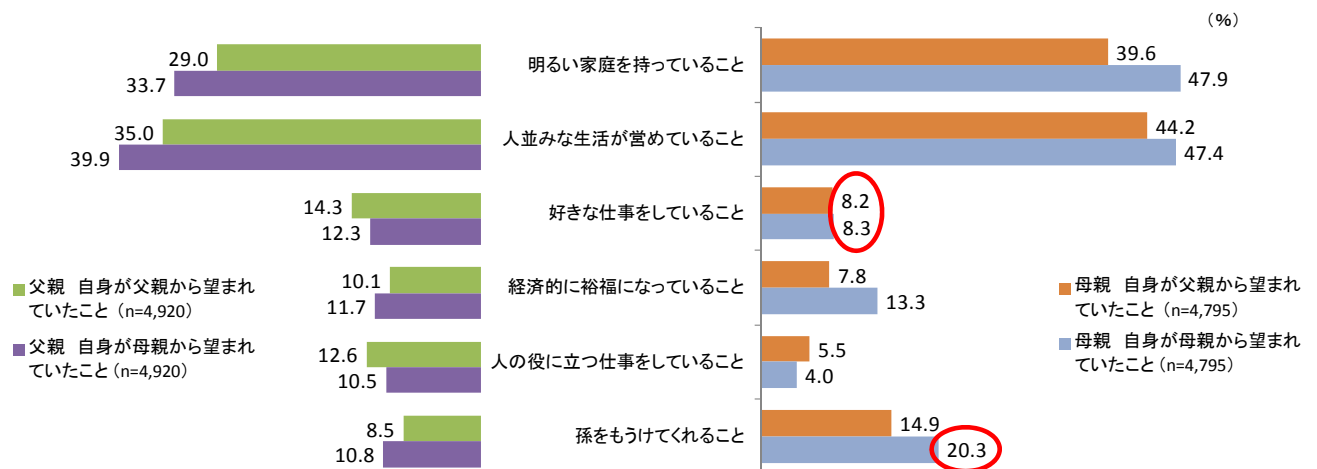
◇親が子どもに望むのは「明るい家庭」・「人並みな生活」に続いて、「好きな仕事」

- ・子どもに望む(望んでいた)ことと、親が望まれていたことをたずねました(複数回答)。
- ・「明るい家庭を持っていること」・「人並みな生活が営めていること」が高く、「好きな仕事をしていること」が続いています。
- ・「好きな仕事をしていること」は、父親が39.4%に対し、母親は53.7%で14.3ポイント高くなっています。母親自身が望まれていたのは父親から8.2%・母親から8.3%で、母親は自分の親よりも45ポイント超も高く子どもに望んでおり、最も大きな違いが出ました。母親が若い頃には女性に「好きな仕事をしていること」を望む親たちは少数派であり、女性の社会進出が求められている現在とでは世の中の意識が大きく変化したことがわかります。
- ・母親は、自分の母親から「孫をもうけてくれること」を望まれていた割合は20.3%ですが、母親自身が子どもに望む(望んでいた)割合は10.5%とほぼ10ポイント低くなりました。
- ・今の親が子どもに望むものは、自分たちが親に望まれていたものと基本的には同じく「明るい家庭」・「人並みな生活」ですが、「好きな仕事」については時代の変化が読み取れます(図表17・18)。

図表17 親が子どもに望む(望んでいた)こと(複数回答)



図表18 親自身が望まれていたこと(複数回答)

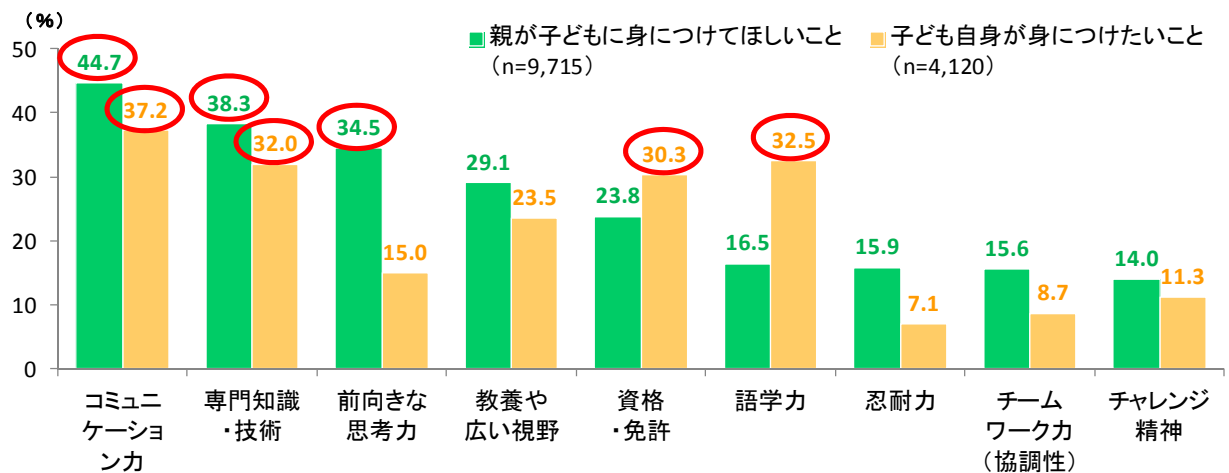


■ 親が子どもに身につけてほしいこと・子どもが身につけたいこと

◇子どもは、「語学力」・「資格・免許」など具体的なスキルを身につけたい

- ・親に子どもが身につけてほしいこと（複数回答）をたずねたところ、「コミュニケーション力」が44.7%で最も高く、次いで「専門知識・技術」38.3%・「前向きな思考力」34.5%と続きます。
- ・子どもに自分で身につけたいこと（複数回答）をたずねたところ、「コミュニケーション力」37.2%に続き、「語学力」32.5%・「専門知識・技術」32.0%・「資格・免許」30.3%という具体的なスキルが高くなっており、国際化や就職への対応が優先されていることがうかがえます（図表19）。

図表19 親が子どもに身につけてほしいことと子どもが身につけたいこと（複数回答）



注：子どもは大学生等・社会人

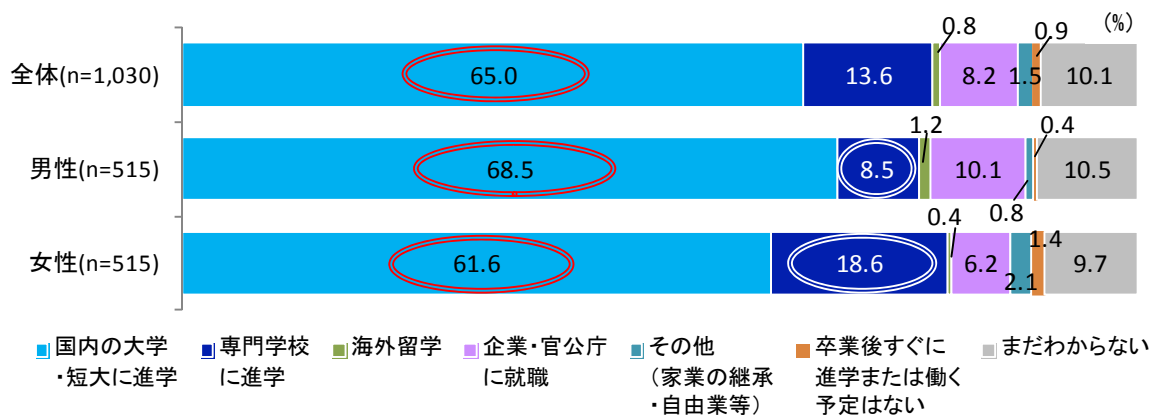
4. 子どものライフイベントへの親の関わり

■ 子どもの進学への関わり

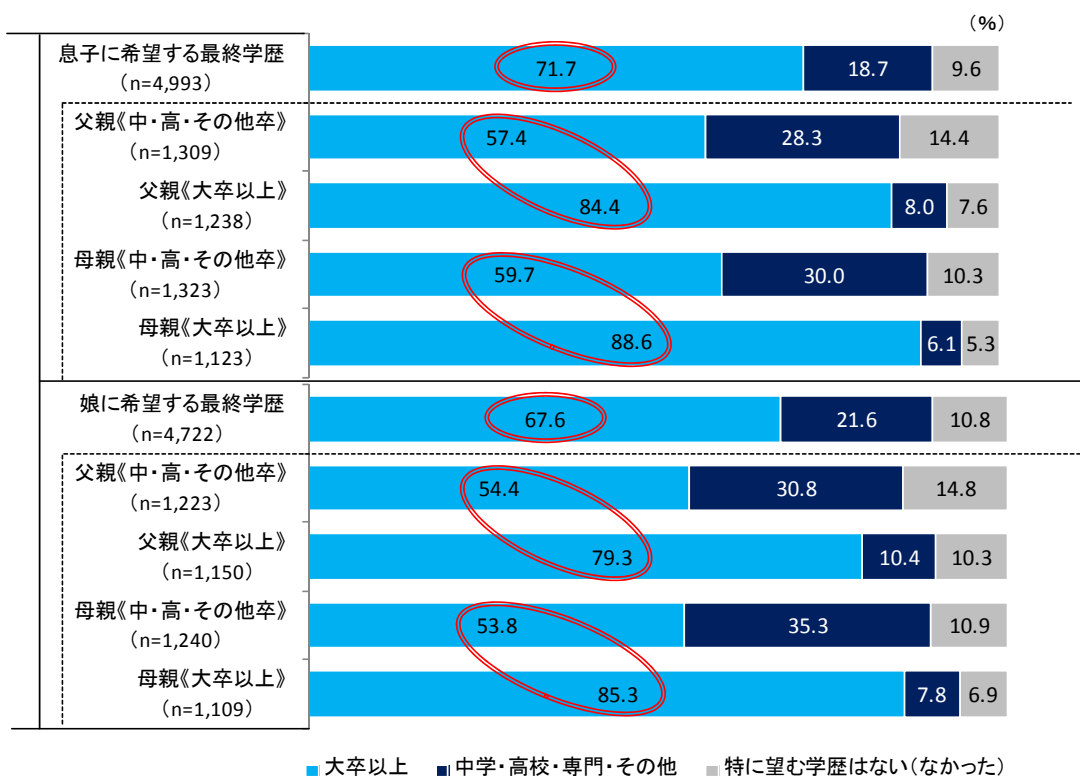
◇親が子どもに「大卒以上」希望は、息子 71.7%・娘 67.6% 子どもの希望は 65.0%

- ・高校生に卒業後の希望する進路をたずねたところ、65.0%が「国内の大学・短大に進学」でした。
- ・男女別で見ると、大学進学希望者は男性が 68.5%と女性 61.6%を約 7 ポイント上回り、専門学校希望者は女性が 18.6%と男性の 8.5%を約 10 ポイント上回りました（図表 20）。
- ・親に対して、子どもに希望する最終学歴をたずねたところ、息子には 71.7%・娘には 67.6%が「大卒以上」を希望しています。親の学歴別で見ると、大卒以上の親は子どもにも「大卒以上」の学歴を希望する割合が高く、特に母親の方が父親よりもその傾向が強くなっています（図表 21）。

図表 20 子どもが希望する高校卒業後の進路



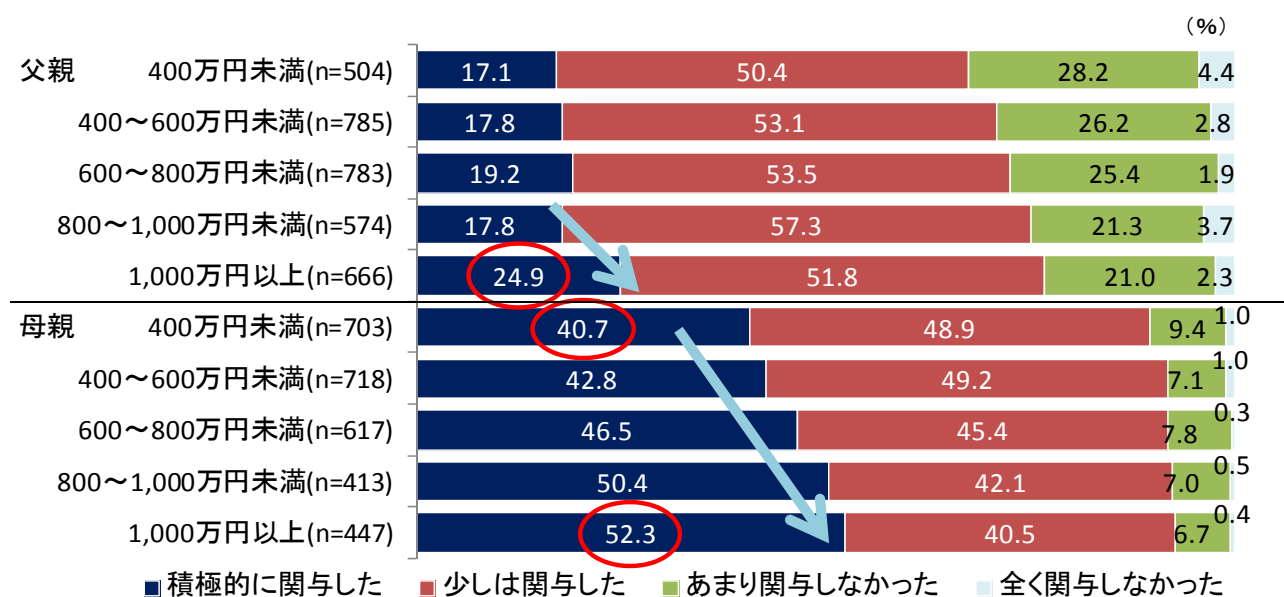
図表 21 親が子どもに希望する最終学歴



◇世帯年収が高くなるほど母親は子どもの進学に積極的に関与

- ・親の世帯年収別に子どもの進学に対する親の関わり度合いを見てみます。
- ・子どもの進学について積極的に関与した父親は、世帯年収が1,000万円未満までは20%を下回っていますが、1,000万円以上では24.9%となっています。
- ・母親は、世帯年収が高くなるにつれて積極的に関与した割合が高くなっています。400万円未満の場合は40.7%なのに対して、1,000万円以上の場合は52.3%と11.6ポイント高くなっています。
- ・世帯年収が高くなるに従い子どもの進学に「積極的に関与」している傾向が見て取れますが、「少しは関与した」までを含めるとそれほど大差はありません(図表22)。

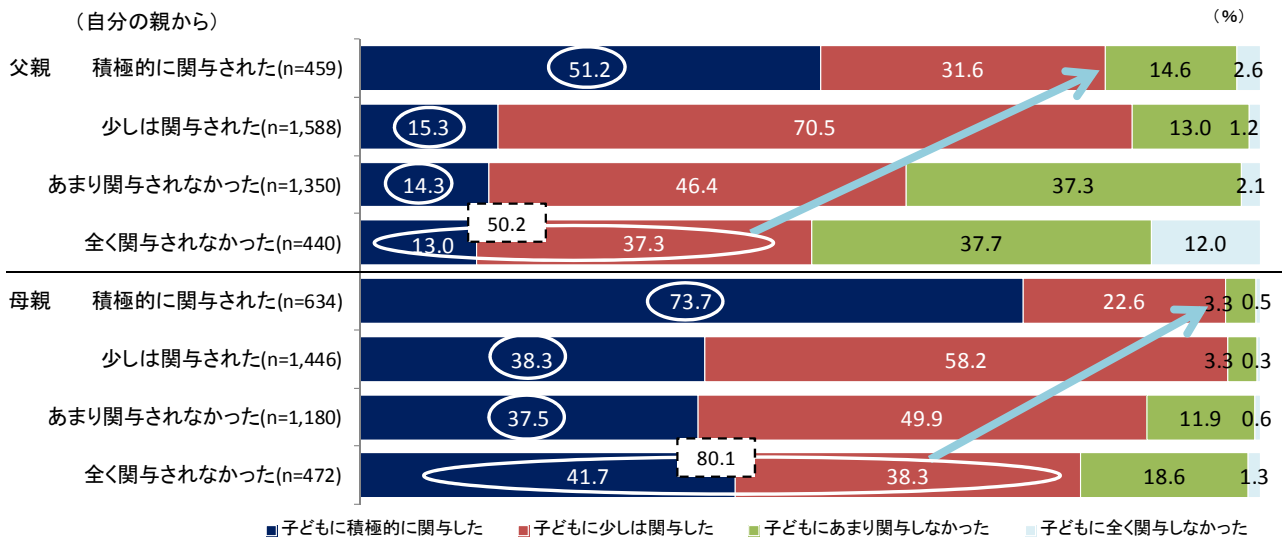
図表22 親の世帯年収と子どもの進学への関わり



◇親は自分の進学について親の関与が強かったほど、自分も子どもの進学に積極的に関与

- ・親の進学へのその親の関与度合別に子どもの進学への親の関わりを見ると、親の進学にその親の関与が強かったほど、親が子どもの進学に対して強く関与していることがわかりました。
- ・父親は、子どもの進学に積極的に関与したのは、「自分の親から全く関与されなかった」13.0%・「自分の親からあまり関与されなかった」14.3%・「自分の親から少しは関与された」15.3%に対して、「自分の親から積極的に関与された」は51.2%と36~38ポイント高くなっています。
- ・母親は、父親よりも関与しており、また、親の関与度合いによる傾向は父親と同様でした。子どもの進学に積極的に関与したのは、「自分の親から全く関与されなかった」41.7%・「自分の親からあまり関与されなかった」37.5%・「自分の親から少しは関与された」38.3%に対して、「自分の親から積極的に関与された」は73.7%と32~36ポイント高くなっています。
- ・「積極的に関与した」と「少しは関与した」をあわせても、自分の親の関与が強かったほど、自分も子どもの進学に対して関与している傾向があります。自分の親から「全く関与されなかった」場合でも、自分自身は「積極的に関与した」と「少しは関与した」をあわせると父親の50.2%・母親の80.1%が子どもの進学に対して関与しています(図表23)。

図表 23 父母の進学へのその親の関与と父母の子どもの進学への関与

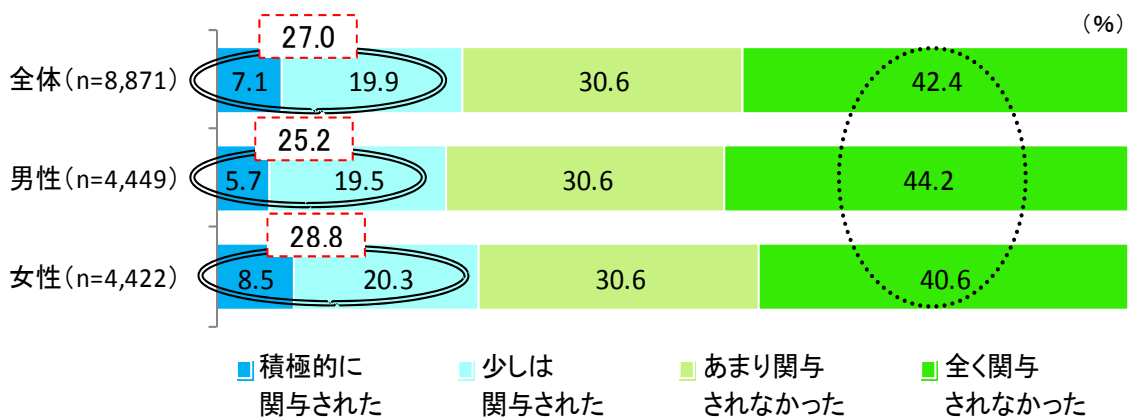


■ 子どもの就活への関わり

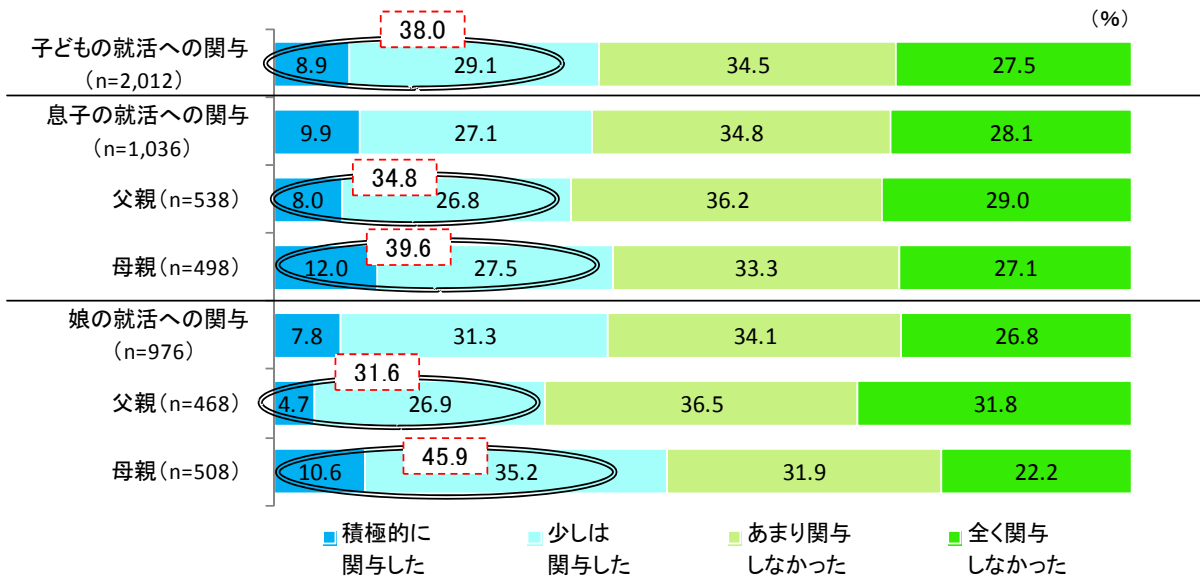
◇子どもの就活まで関わる親が増加傾向

- ・親が就活をしていた頃と比較して、就活に対する親の関与を見てみます。
- ・親が就活をしていた頃にその親が就活に関与（「積極的に関与」＋「少しは関与」）したのは 27.0%で、男女別では男性 25.2%・女性 28.8%となっています。「全く関与されなかった」は、40%超となっています（図表 24）。
- ・就活経験のある子どもを持つ親が子どもの就活へ関与したのは 38.0%と、親が就活をしていた頃より高くなっています。母親の方が父親より関与した割合が高く、息子の就活へ 39.6%・娘の就活には 45.9%関与しています（図表 25）。

図表 24 親自身が就活をしていた頃に親から関与されたか



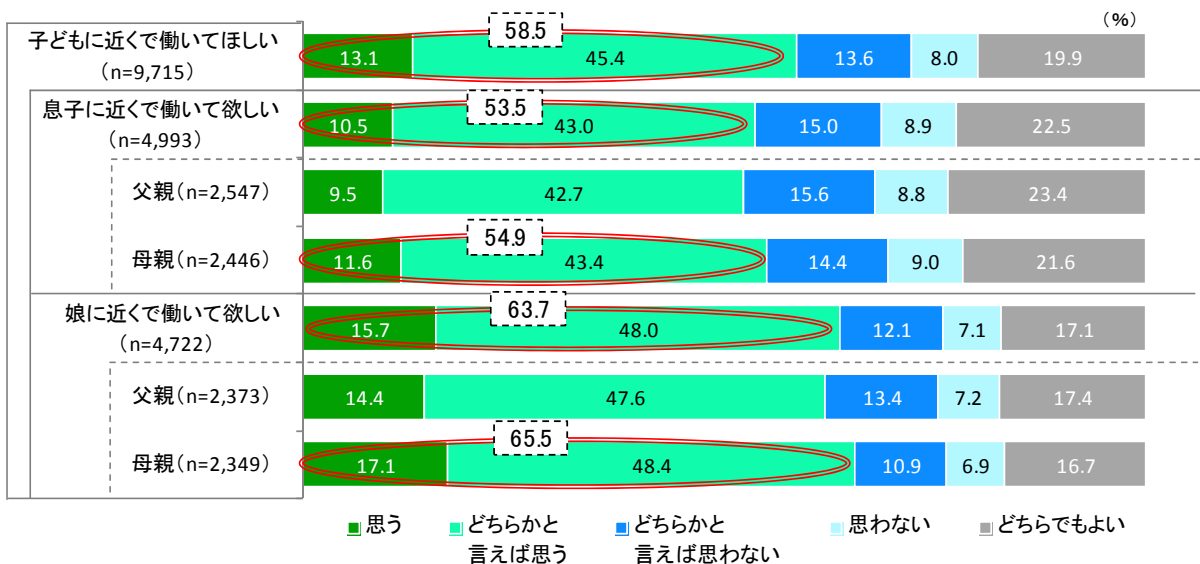
図表 25 子どもの就活に関与したか



◇子どもに近くで働いてほしい親は 58.5%

- ・子どもに自分たちの居住地の近くで働いてほしいかを親にたずねました。
- ・近くで働いてほしいと思っている（「思う」＋「どちらかと言えば思う」）親は 58.5%で、父親より母親の方が高くなっています。
- ・娘に近くで働いてほしい親は 63.7%で息子の 53.5%よりも 10 ポイント程度高く、また、母親の 65.5%が娘に近くで働いてほしいと思っています（図表 26）。

図表 26 子どもに自分たちの近くで働いてほしいか



■ 子どもの結婚への関わり

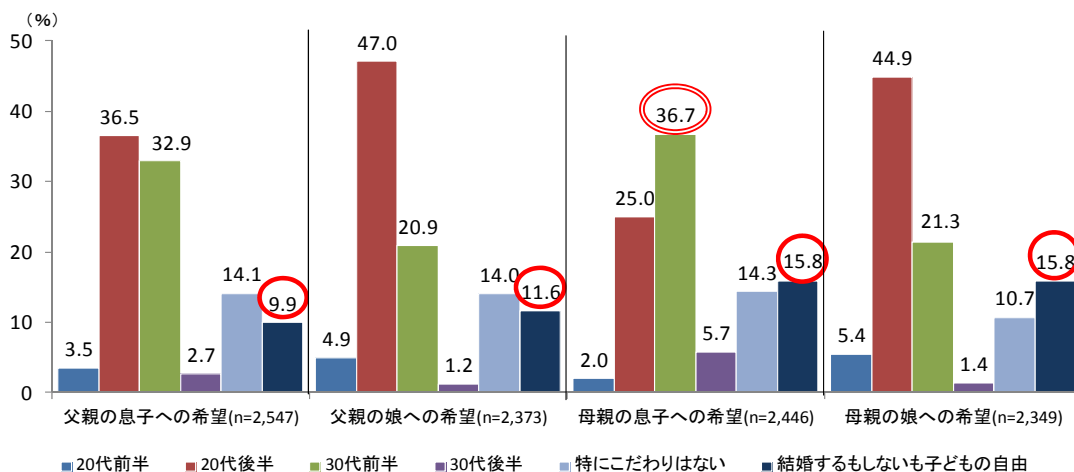
◇息子に30代前半までの結婚を望んでいる母親が多い

- ・子どもに「結婚は何歳頃までにしたいか」、親には「子どもが何歳頃までに結婚してほしいか(ほしかったか)」をたずねました。
- ・父親が望む息子・娘の結婚年齢はともに20代後半までが最も高くなっています。
- ・母親が娘に望む結婚年齢は同様に20代後半までが最も高いのですが、息子には30代前半までの36.7%が最も高く、20代後半までの25.0%よりも11.7ポイント高くなっています(図表27)。

◇「結婚するもしないも子どもの自由」と考えている父親は約1割、母親は15.8%

- ・「結婚するもしないも子どもの自由」と考えている父親は、息子について9.9%・娘について11.6%。「結婚するもしないも子どもの自由」と考えている母親は、息子・娘ともに対して15.8%になっています。
- ・「結婚するもしないも子どもの自由」と「結婚年齢について特にこだわりはない」をあわせると、父親は息子24.1%・娘25.7%、母親は息子30.1%・娘26.6%になっています(図表27)。

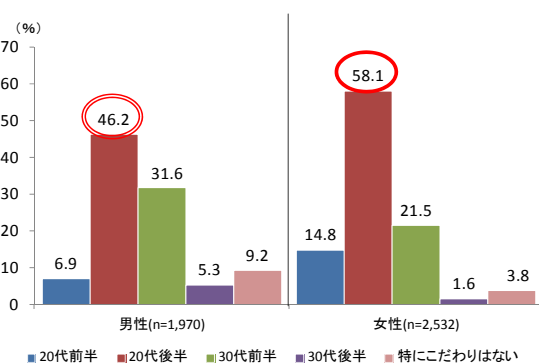
図表27 親は子どもにいつまでに結婚してほしいか



◇子どもが望む結婚年齢は20代後半

- ・子どもが望む結婚年齢で最も高いのは、男女ともに20代後半までで、男性46.2%・女性58.1%です(図表28)。
- ・母親が息子に望む結婚年齢は30代前半までが最も高くなっています(図表27)が、男性自身は30代前半までは31.6%で、20代後半までの46.2%よりも14.6ポイント低くなっています。

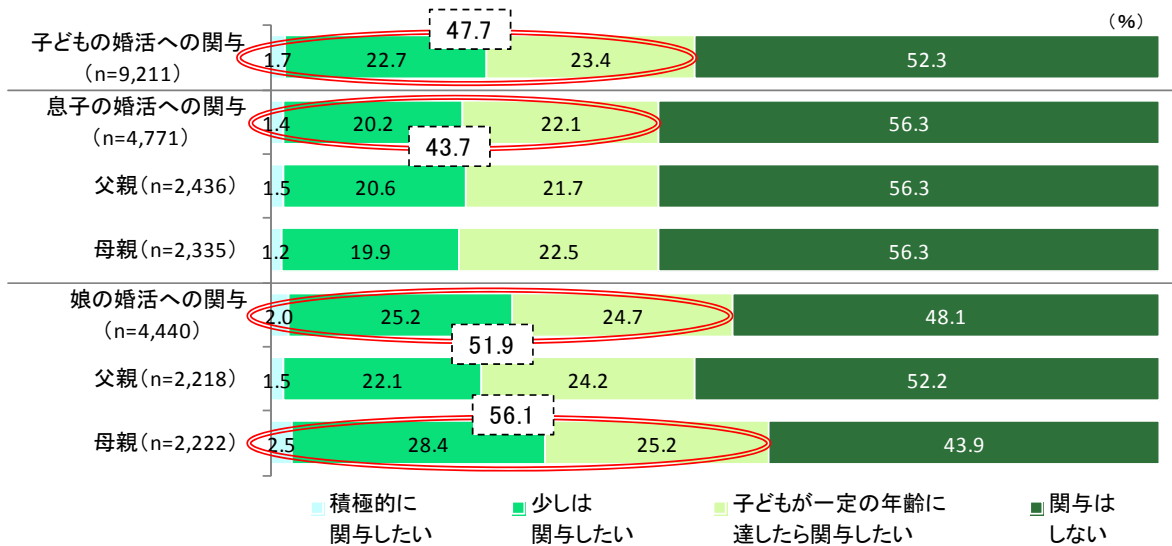
図表28 子どもはいつまでに結婚したいか



◇子どもの婚活への関与希望は 47.7%

- ・子どもの婚活に将来どれくらい関与したいかを親にたずねました。
- ・「積極的に関与したい」は 1.7%と少数ですが、「少しは関与したい」22.7%・「子どもが一定の年齢に達したら関与したい」23.4%で、関与をする意向があるのは合計 47.7%です(図表 29)。
- ・息子よりも娘の婚活に関与したいと考える親の方が多く、娘を持つ母親の 56.1%は何かしらの関与をする意向を持っているようです。

図表 29 子どもの婚活へ関与したいか



5. 親の心配

■ 子どものSNSとの関わり方

◇インターネット利用について親が心配すること

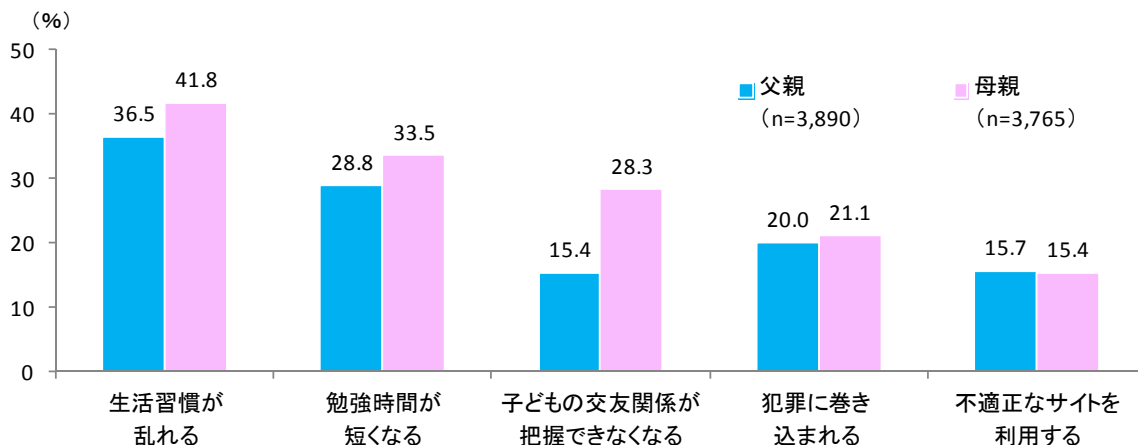
- ・子どもがインターネットを利用することについて、親の心配をたずねました（複数回答）。
- ・「生活習慣が乱れる」が最も多く父親 36.5%・母親 41.8%、続いて「勉強時間が短くなる」が父親 28.8%・母親 33.5%となっています。

母親は特に「子どもの交友関係が把握できなくなる」が 28.3%と懸念しており、「犯罪に巻き込まれる」・「不適正なサイトを利用する」ことは父母ともに同じくらい心配しています（図表 30）。

- ・子どもに「インターネットを使用することで実際に影響が出ていると感じることはあるか」とたずねたところ、約半数の 47.3%が「特に影響は感じない」ものの、親の心配どおり「生活習慣が乱れた」は 31.9%・「勉強時間が短くなった」は 17.3%と影響が出ています。

「いじめやプライバシー侵害の被害を受けた」 1.0%・「犯罪に巻き込まれた」 0.5%については、率は低いものの見すごせない課題です（図表 31）。

図表 30 子どもがインターネットを使うことで親が心配に思うこと（複数回答）



注：親は、高校生・専門学校生・大学生等の子を持つ親

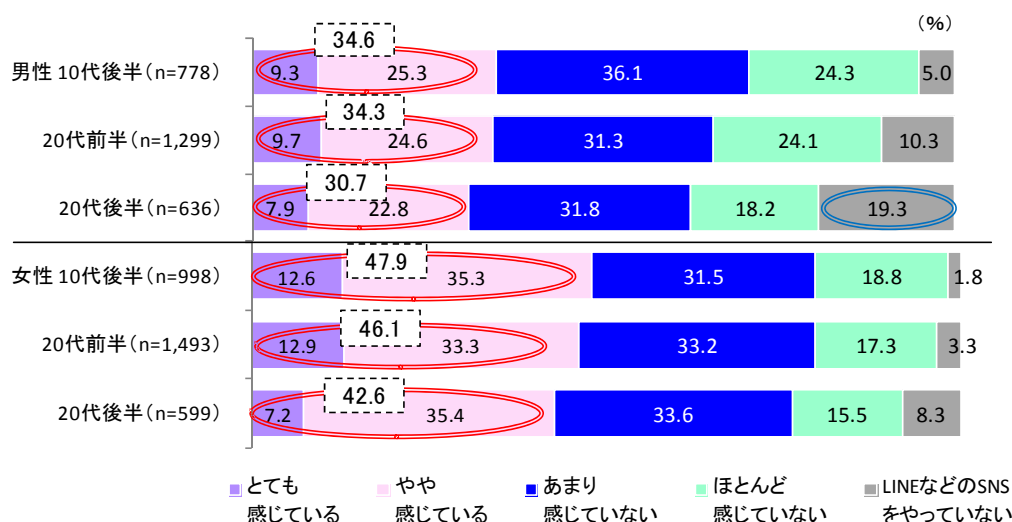
図表 31 インターネットを使用することで実際に影響が出ていると子ども自身が感じる事



◇ SNSは、多くの若者が負担やわずらわしさを感じながらも大切なツール

- ・ SNSについて、人間関係上の負担やわずらわしさを感じているかをたずねました。
- ・ 「SNSを通じた人間関係」について負担やわずらわしさを感じている（「とても感じている」＋「やや感じている」）のは、男性で10代後半34.6%・20代前半34.3%・20代後半30.7%となっています。20代後半男性の19.3%が「LINEなどのSNSをやっていない」となっています。
- ・ 女性は男性に比べてSNSでのつながりに負担を感じている割合が高く、特に10代後半では47.9%と約半数に上ります。男性同様、年代が上がるにつれてその割合は減少しますが、20代前半46.1%・20代後半42.6%と4割以上の方がわずらわしさを感じています（図表32）。
- ・ SNSについては、便利さの一方で人間関係上の負担やわずらわしさを感じている若者が多いものの、93.5%の人がLINEを主なコミュニケーションツールとして使っており、負担を感じながらも大切なコミュニケーションツールとなっているようです。
親のLINE利用は78.5%で、子どもよりは低いものの、コミュニケーションツールとして活用されています（図表33）。また、親子ともに男性よりも女性の利用割合が高くなっています。

図表32 SNSを通じた人間関係に負担やわずらわしさを感じているか



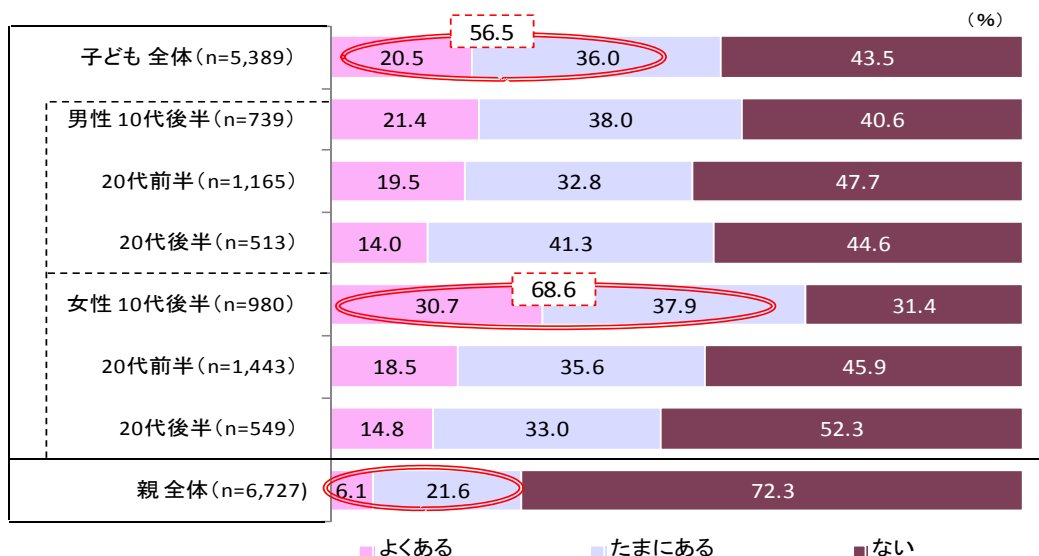
図表33 「LINE」を主なコミュニケーションツールとして利用している

	男性			女性		
	10代後半 (n=739)	20代前半 (n=1,165)	20代後半 (n=513)	10代後半 (n=980)	20代前半 (n=1,443)	20代後半 (n=549)
子全体 (n=5,389)	94.3	91.4	79.1	97.9	97.1	93.4
親全体 (n=6,727)	91.3	77.4	67.7	93.7	85.7	78.3

◇実際に会ったことのない相手とのSNSでのコミュニケーション 10代後半女性は68.6%

- ・SNS上ではつながっているが、実際には会ったことのない相手とコミュニケーションをとることがあるかをたずねました。
- ・子どもは、20.5%が「よくある」、36.0%が「たまにある」というのが実態です。特に10代後半の女性はその割合が最も高く、「よくある」・「たまにある」をあわせると68.6%になっています。
- ・親は、子どもよりは低いものの、「よくある」6.1%・「たまにある」21.6%という実態になっています（図表34）。

図表34 実際には会ったことのない相手とSNS上でコミュニケーションをとることがあるか

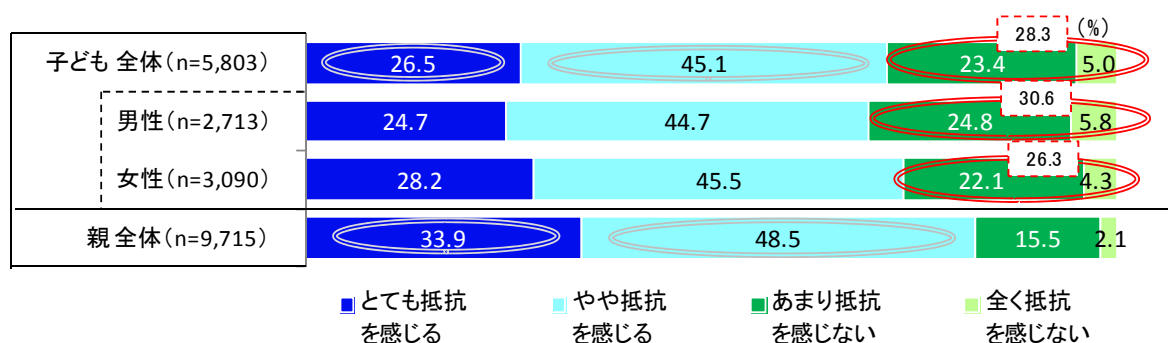


注：SNSをやっていない人を除く

◇大事な話をメールやLINEで伝えることに、子どもの28.3%は抵抗感なし

- ・知人同士のコミュニケーションで、対面せずにメールやLINEで告白したり別れ話をしたりすることがあると言われています。「相手と対面せずに人間関係の大事なことを伝えることに抵抗を感じるか」をたずねました。
- ・子どもは、「とても抵抗を感じる」26.5%、「やや抵抗を感じる」45.1%となっています。
- ・抵抗感がない（「あまり抵抗を感じない」+「全く抵抗を感じない」）は、子ども全体が28.3%で、男女別では男性30.6%・女性26.3%となっています。
- ・親は、「とても抵抗を感じる」33.9%・「やや抵抗を感じる」48.5%で、子どもより抵抗が大きいです（図表35）。

図表35 対面せずに、別れ話などの大事なことをメールやLINEで伝えることに抵抗を感じるか



■ いじめの実態

◇子どもの約半数がいじめられた経験があり、20代後半女性では54.6%にも

- ・子どもはどれほどいじめに直面しているのでしょうか。いじめを受けた経験をたずねました。
- ・「いじめを受けたことがある」人は、約半数の46.0%にもなっています。
- ・年代別では、男女ともに10代後半が一番低く、年齢が上がるにつれていじめられた経験がある人の割合が高くなっており、特に20代後半の女性では54.6%にも達しています(図表36)。

図表 36 いじめを受けたことの有無

